

腎・副腎・その他

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
5016	レニン活性 4Z010-0000-022-023	EDTA-2Na 血漿 0.7	7	血漿 凍結	3~4	100 生化II	EIA	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1 ng/mL/h		【高値】アルドステロン(高) 腎血管性高血圧・悪性高血圧・褐色細胞腫 【高値】アルドステロン(低) アンジオン病・21-水酸化酵素欠損症 【低値】アルドステロン(高) 原発性アルドステロン血症・偽性低アルドステロン血症 【低値】アルドステロン(低) 水酸化酵素欠損症・DOC産生腫瘍 低レニン性偽性アルドステロン血症
9006	レニン定量 4Z020-0000-022-052	EDTA-2Na 血漿 0.5	7	血漿 凍結	3~4	105 生化II	CLEIA	2.21~39.49 pg/mL		
5017	アルドステロン	EDTA-2Na 血漿 0.5	7	血漿 凍結	3~5	125* 生化II	CLEIA	4.0~82.1 pg/mL	血清では測定できません。	【高値】レニン(高) 腎血管性高血圧・悪性高血圧・褐色細胞腫 【高値】レニン(低) 原発性アルドステロン血症 偽性低アルドステロン血症 【低値】レニン(高) アンジオン病・21-水酸化酵素欠損症 【低値】レニン(低) 水酸化酵素欠損症・DOC産生腫瘍 低レニン性偽性アルドステロン血症
5054		24時間 蓄尿 2	6	凍結	4~6	125* 生化II		1.0~19.3 μg/day		
9085	アンギオテンシンⅠ転換酵素 (ACE) 3B325-0000-023-271	血清 0.7	1	冷蔵	3~5	140 生化I	比色法 (笠原法)	8.3~21.4 U/L	血漿では測定できません。	【高値】活動性サルコイドーシス 珪肺症・甲状腺機能亢進症・肝炎・肝硬変 【低値】クローン病・慢性リンパ性白血病 多発性骨髄腫・肺結核
9078	ANP (心房性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z270-0000-022-023	EDTA アプロチン 血漿 0.4	9	血漿 凍結	3~5	221* 生化II	FEIA	43.0以下 pg/mL		【高値】心不全・心筋梗塞・腎不全 本態性高血圧・クッシング症候群 肝硬変
9090	BNP (脳性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z271-0000-022-051	EDTA-2Na 血漿 0.3	7	血漿 凍結	1~3	133* 生化II	CLIA	18.4以下 pg/mL		【高値】心不全
2730	NT-pro BNP 4Z272-0000-023-051	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	136* 生化II	CLIA	125以下 pg/mL		【高値】心不全
9001	エリスロポエチン 4Z275-0000-023-052	血清 0.7	1	凍結	3~4	209* 生化II	CLEIA	4.2~23.7 mIU/mL		【高値】貧血 (再生不良性・鉄欠乏性など) エリスロポエチン産生腫瘍 【低値】腎性貧血・慢性炎症

* 内分泌学的検査の包括 1回に採取した血液を用いて3項目以上の検査を行った場合
3~5項目：410点 6・7項目：623点 8項目以上：900点

※レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみを算定する。

※エリスロポエチンは、①赤血球増加症の鑑別診断、②重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断、③骨髓異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のいずれかの目的で行った場合に算定する。

※脳性Na利尿ペプチド(BNP)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)及び心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月に1回に限り算定する。

脳性Na利尿ペプチド(BNP)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)及び心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を「摘要」欄に記載する。

1	真空採血管	1	血清・血漿用	6	尿一般	7	EDTA-2Na	9	EDTA-アプロチン	64	顆粒球エラスターゼ	65	フィブロネクチン
													